

苫小牧市 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市では、苫小牧市教育大綱に掲げる「未来の社会をつくるひとづくり」の基本理念に基づき、これからの時代に求められる資質・能力の育成に取り組んでいる。

21世紀の社会（Society 5.0時代）においては、子どもたちが、鉛筆やノートなどの文房具と同様に、身近なツールとして、ICT機器を活用しながら学ぶことで、多様な子どもたちの資質・能力を育成するための、個別最適な学びと協働的な学びの実現が求められている。

本市においても、GIGAスクール構想（第1期）により、令和2年度に児童生徒1人1台の学習用端末や、ネットワーク環境などを全小中学校へ整備しており、こうしたICT環境を活用することによって、これからも、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現し、「主体的・対話的で深い学び」をより一層推進していく。

具体的な内容として、各学校では、授業の場面において、AI型ドリル教材、動画教材、デジタルコンテンツ教材等を利用し、一人一人の興味・関心やつまづきに合わせて学習できるようにする。その他として、共同編集機能を活用し、グループでの意見整理、他者の思考の可視化を行い、協働的な学びの充実を図る。

また、オンラインによる授業配信、板書や授業プリントなどのクラウド活用によって、不登校児童生徒を含む、全ての子どもたちに対する「個別最適・協働的な学びの充実」及び「学びの保障」を図る。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期当初、ICTの活用にあたり各学校における課題が、大きく2点存在した。

1点目は、端末がインターネットにスムーズにつながらないため、不便を感じ、端末の積極的な活用につながらなかったこと、2点目は、授業などでICTを活用するにあたり、各教員間において、その習熟度に差がみられたことである。

以上2点の課題を解決するために、具体的に行った環境整備について、ハード面及びソフト面に整理して記載する。

（1）ハード面

① ネットワーク環境の充実

本市の小中学校では、平成31年度に実施した、コンピュータ教室の学習用端末更新とあわせて、普通教室にアクセスポイント（AP）を設置し、無線LAN（Wi-Fi）環境を一部整備し、令和2年度にはGIGAスクール構想による学習用端末の一人一台化の方針が示され、Wi-Fi環境未整備の特別教室等へのAPの設置を行ってきた。

その後、各校で学習用端末を使用した際に、Wi-Fiに正常に接続されないとの報告が多数あったため、令和4年度にネットワークアセスメントにより、通信状況の調査を実施した。

その結果、平成31年度に整備したAPの処理性能では、令和2年度に整備した学習用端末一人一台環境でのクラス一斉利用に耐えられず、Wi-Fiへの接続不良や速度遅延等の不具合が発生していることが判明したことから、令和4年度から令和6年度にかけて、高性能のAP

へ順次更新を行った。

また、令和6年度において、ネットワーク接続契約を1Gbpsから10Gbpsへ拡充することで、高速化が進められ、ネットワーク環境の充実が一層図られた。

今後についても、ICTを最大限活用できるために、ネットワーク環境の充実を図っていく。

② 周辺機器の充実

1人1台端末の導入に合わせて、モニター等の周辺機器の整備により、児童・生徒が資料を投影しながら、自分の考えを説明できる環境が整備された。また、充電保管庫の設置により、端末の格納や夜間充電ができる環境の整備を行った。

(2) ソフト面

① 「苫小牧市ICT活用ハンドブック」の策定

本ハンドブックは、1人1台の学習用端末を活用することで、すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現し、「主体的・対話的で深い学び」のより一層の推進を実現することを目的に、令和3年2月に策定し、活用の実態に合わせて、随時改訂も行ってきた。

② 資質・能力育成に向けた共通視点の共有

本ハンドブックでは、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を一層確実に育成するため、これまでの教育実践とICTのベストミックスを図ることを目的に、GIGAスクール構想実現に向けた以下に掲げる3つのSTEP（ステップ）を構築し、取り組みを進めた。

ステップ1では、「すぐにでも、どの教科でも、誰でも使える。」ことを目標として、「できることからやってみる」ことや、「検索サイトの活用、考えをまとめて発表、一斉学習での活用、一人一人の学習状況に応じた個別学習」の取組を示した。

ステップ2では、「教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。」ことを目標として、「各教科等でのICTの効果的な活用」の取組を示した。

ステップ3では、「教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かす。」ことを目標として、「STEAM教育（教科等横断的な学習の推進）」や、「探究のプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）におけるICTの効果的な活用」の取組を示した。

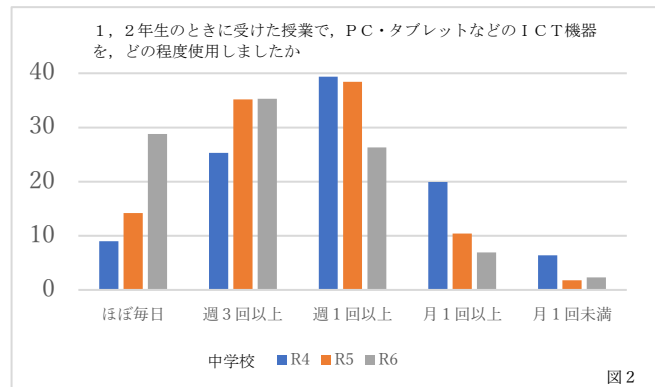
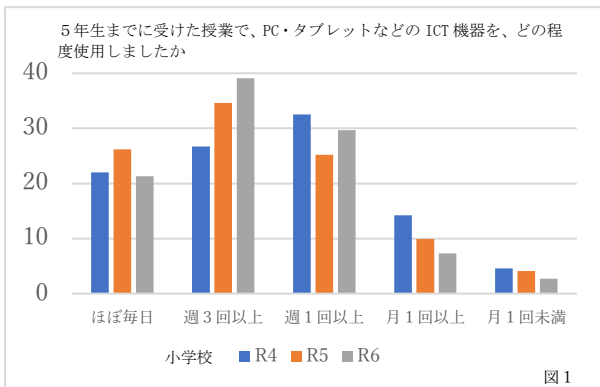
③ 教職員研修の充実

1人1台端末の導入後は、教職員の役職や経験年数、技能に応じたICT活用研修を実施し、研修内容の充実を図ってきた。

また、教職員向けリーフレット「ICT活用Leaf」を定期的に発行し、授業での効果的な活用方法に関する情報提供を行ったことや、教職員向け情報共有動画サイト「Tomatube」を活用し、操作動画、研修会の動画等を視聴できるよう整備し、教職員の主体的な学びを促した。

上記の取組を行った結果、全国学力・学習状況調査において、小学校では、週3回以上、I

ＣＴを活用している授業の割合が増加していることや、中学校では、ほぼ毎日、ＩＣＴを活用している授業の割合が増加していることから、令和４年度から着実に利用頻度が増加傾向にあると判断できる。（図１、図２）



特に、令和6年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査では、ＩＣＴ機器を活用することについて、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と回答した児童が、全国平均を上回る結果となったことから、ＩＣＴを活用した個別最適な学びが進んでいると判断できる。

3. 1人1台端末の利活用方策

（１）「1人1台端末の積極的活用」

① 職員研修の充実

集合、双方向オンライン、動画配信等を組み合わせた教職員研修の一層の充実を図るとともに、全国教員研修プラットフォームを活用し、学び続ける教職員の育成を目指す。

② デジタル教科書や、デジタルコンテンツの活用

デジタル教科書及び、教科書に記載されているデジタルコンテンツの活用を推進する。

（２）「個別最適・協働的な学びの充実」及び「学びの保障」

① 「Teams」等を活用して、クラウド上に学習に関する資料を蓄積し、児童生徒がいつでも自分のタイミングで活用し、学びを進められるようにする。

② オンラインホワイトボード等を活用して、児童生徒が協働的に意見整理したり、他者の考えを参照し、自分の考えを広げたりできるようにする。

③ 学校でeライブラリ等の学習ドリル教材を用いて、各児童・生徒の特性や理解、進度に合わせて端末上で学習が行えるようにする。

④ 端末の持ち帰りを積極的に行い、学校での学びを家庭学習につなげ、児童生徒の学習習慣の確立を目指す取組を行う。

⑤ 不登校や病気等により、授業に参加が難しい児童生徒についても、多様な場面で学びを継続できるよう、ＩＣＴを活用し支援する。

以上の取組を推進するために、本市としては、端末の更新・整備により、児童生徒向けの1人1台端末環境を継続して維持していく。